

様式 2

令和 4 年度 墨田区立言問小学校 経営計画書

校長名 井上 義郎

学 校 目 標	① よく考え、進んで行き最後まで「やりぬく子」を育てる。 ② なかよく協力する「明るい子」を育てる。 ③ 体をきたえ、心の「ゆたかな子」を育てる。
目指す学校像	児童が、変化の激しい時代を心豊かに生きていくための素養を育てることを言問小学校の教育指針として指導に当たる。 「言問小のすべての児童が、自分の将来に夢や希望をもてる学校」
目指す子供像	人間尊重の精神を基盤にして、心身共に健康な知・情・意・体のバランスのとれた児童
目指す教師像	・児童をしっかり見守り、児童を認め、励まし、寄り添いながら育成に努める教師 ・日々己の研鑽に努め、専門性を高める努力を惜しまない教師 ・「全ては子ども達のために」教育に情熱をもって取り組み、児童、保護者、地域の信頼に応えられる教師

項目	取組目標	取組指標	成果指標
各教科指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。	○基礎的・基本的な内容の確実な定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・一単位時間の始まりに、必ず学習のめあてを提示し、学習することを理解させてから学習に取り組ませる。終わりをまとめの時間とし、記述させることで理解を確実にさせる。練習問題や振り返りを通して、児童の理解度を把握し、授業改善に役立たせる。 ・授業に「考える」「書いて整理する」「発表する」活動を各教科の授業の中に位置付け、展開する。 ・タブレット端末やICT機器を積極的に活用し、児童の興味・関心、理解度を高める。 ○全学年、算数習熟度別少人数指導を行う。 ○3年以上の理科はTT体制で実施する。 ○「言問塾」(5・6年生対象)年間20回以上実施する。 ○「アタックタイム」(2～4年生対象)年間20回以上実施する。 ○「家庭学習のすすめ」を配付し、家庭学習の習慣化を図る。	・児童の授業評価で「今日の学習が理解できた」項目を90%にする。 ・自分の考えを書いて整理する活動を意図的、計画的に行い、またタブレット端末を効果的に使用しながら、それをもとにグループでの話し合いや発表につなげる授業を継続的に実施する。 ・指導教諭の模範授業に1～4年目の教員は最低1回は参加し授業改善に生かす。 ・毎日1回以上はICT機器を採り入れた授業を実施する。 ・児童の参加率毎回90%以上にする。 ・学年×10分+10分の達成率70%以上。
	特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行う。	○校内委員会による個別指導計画の作成・実施・評価・改善を行う。 ○特別支援教育について教職員や保護者の理解を一層高める。	・毎月1回の特別支援教育校内委員会を開催する。 ・校内委員会で支援の具体策を検討・提案し、改善策の共通理解を図る。 ・教員対象の校内研修会を実施する。 ・4月の保護者全体会で説明し特別支援に対する正しい理解を促す。 ・巡回相談を年2回実施する。
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	○地域や外部人材等を活用し意図的・計画的な教育活動を推進する。 ○幼保小中一貫教育の推進に向けて、地域の子どもは地域の幼保小中の教員	・各学年地域人材や学校支援ネットワークを活用した授業やフィールドワークを採り入れた現地学習を取り入れる。

様式 2

		が協力して看取っていく体制を維持する。 ○異校種との交流活動を行い、児童が生き方や将来を考える機会とする。	・幼保小中一貫教育推進連絡協議会での全学年授業公開を通して、「つながりを通して、学びを深めていく一貫教育」の共通認識と推進に努める。
	教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	○「確かな国語の力を育てる指導法の工夫～説明的な文章の読解指導を通して～」に向けて、授業研究を中心に研究を進める。 ○新学習指導要領の趣旨が生きる授業づくりのため、全教員に都区の教科研究会への参加を促す。 ○指導教諭の模範授業を活用した校内研修会を実施する。	・各学級研究授業1回、年間8回と公開授業2回実施する。 ・区特色ある学校づくりの指定を受け、国語教育の充実と授業力向上を図る。 ・参加率90%以上。 ・都区の研修会や研究授業に参加した教員には、その都度研究資料配付や伝達講習を実施させ、共有する。
生活指導等	いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。	○定期的な生活アンケートを行い、児童の学習・生活状況を把握し、問題行動等の早期発見、早期解決に努める。	・ふれあい月間に合わせてアンケートは、全校で着実に実施する。 ・いじめや不登校の校内委員会を月例で開催し、各担当教員を中心とした組織的解決を図り、不登校ゼロ、いじめ問題解決100%をめざす。 ・生活指導全体会を年間2回開催し、職員の共通理解を図り、組織的解決に当たる。 ・毎週金曜日に生活指導朝会を行い、情報共有の場とし、生活指導上の問題行動の予防に努める。 ・SNS言問小ルールをもとに家庭ルールを見直し、家庭への啓発に努める。
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。	○登校時の挨拶や声かけを大切にし、「ゆたかな心」の醸成を図る。 ○自他を尊重する態度を育成する活動を実践する。 ○道徳との他教科、領域との関連を図った道徳教育を推進する。	・年3回（4月、9月、1月）を挨拶月間とする。 ・管理職をはじめ、教職員が登校時に挨拶に立ち、児童の挨拶の定着を図る。 ・公共施設のマナー、来校者への対応など、全学年で指導し、礼儀正しい児童を育成する。 ・よりよい人間関係を築く活動を年間計画に位置付け、計画的に実施する。（レインボー活動、ふれあいサロン） ・教科領域との横断的なカリキュラムを作成し、心に響く道徳授業を実践する。
	危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	○生活、交通、災害に対する安全について指導と訓練を繰り返し、安全な学校生活を送れるようにする。	・毎月1回、安全点検を全教職員で行い、教育委員会と連携しながら危険箇所の早期改修を行う。 ・長期休業中の全勤務日、地域巡回を全教職員で実施する。 ・全学級で安全教育プログラムを使用した授業を実施する。 ・毎週の全校朝会や掲示物で月目標や週目標の周知徹底を図り、各学級に於いて指導する。 ・教育委員会と連携した交通安全教室（全学年）、毎月の避難訓練を計画的に実施する。

様式 2

学校 の 管理 運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。	○「知」「情」「意」「体」の課題解決に向けて取り組む。 ○オリンピック・パラリンピック教育レガシーとして、ボランティアマインドの育成を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業観察、自己申告面接等で、各教員の取り組み課題を示し、指導力向上につなげる。 ・毎週金曜日、週案簿の提出100%目標。 ・年間育成計画をもとに、全ての教員が若手教員の育成にかかわる。 ・道徳教育やレインボー活動を通じた「おもいやり」「親切」「自己有用感」「自尊感情」の涵養を図る。 ・学習規律、挨拶、言葉遣いの徹底に努める。 ・委員会活動、係活動、レインボー活動などによる責任感の育成する。 ・読書活動の推進（年2回読書期間）を図る。 ・運動量を確保した体育授業を実践する。 ・マラソン、縄跳び、外遊びの励行を促す。 ・地域美化活動やおもてなし講座等の学習を通して、国際理解を深め、豊かな国際感覚を身に付けさせる。
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。	○児童一人一人の姿に教育目標の具現化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営連絡協議会委員、地域、保護者による学校関係者評価、教員による自己評価を実施する。 ・学校評価保護者満足度75%以上を目指す。 ・学校行事实施直後に評価を実施し、次年度の改善に生かす。 ・実践－評価－改善－実践とマネジメントサイクルを一連の実践に採り入れ、絶えず取組の改善を図る。
	適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。	○児童の学びに適した教育環境・設備を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な安全点検（毎月1回）、情報の共有 ・毎日の校内巡視による安全点検。 ・教材の点検、整備（長期休業前） ・学校図書館、理科室の整備 ・定期的な教育環境・設備等の点検 ・緊急を要するものから順位を付けて、区へ要望するもの、校内で対応するもの等分類し、整備に努める。
家庭・ 地域 連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。	○言問小のよさを積極的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、各種だより、HP等で発信する。 ・HPの積極的更新による情報発信。保護者・地域の学校教育への理解をさらに進める。 ・児童の日常の様子や頑張りをたよりや写真等で紹介する。 ・宿泊行事などの校外学習時の活動の経過や児童の様子等を、HPやメール等を活用し、伝える。

様式 2

	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。	○地域、保護者、おやじの会等の活動を積極的に校内に伝え、児童、教職員へ地域行事への自主的参加を促す。	・学校華道、町会合同子ども会行事、交通安全教室、夏休み行事、餅つき大会などへの児童の積極的参加を勧める。 ・教員の地域やPTA、おやじの会行事への参加率75%をめざす。

※ 表については、必要に応じて2ページ以上にわたるように加工する。